



学校だより

No.540

令和 4年 9月30日
練馬区立田柄第二小学校
校長 岩井 一雄

教育目標 : 元気な子ども ・ 考える子ども ・ 思いやる子ども

運動会を前に

校長 岩井 一雄

運動会が（体育学習発表会）がいよいよ明日、10月1日（土）に迫りました。

運動会が近づくと、いつも思い出すことがあります。

ずいぶん前のことになりますが、平成4(1992)年、スペインのバルセロナで行われたオリンピックの男子マラソン競技で、8位入賞を果たした谷口浩美選手のことです。

谷口選手は給水ポイントで、他の選手に足を踏まれて転倒し、履いていた靴まで脱げてしまいました。靴を拾い、履き直してレースに戻ったのですが、タイムロスが30秒以上。しかし、その後驚異的な追い上げを見せ、前を行く選手を次々と抜き、堂々と8位でゴールインしました。

谷口選手が転倒した場面は、テレビで何度も放映されていました。混み合う給水ポイントで足を踏まれて転倒してしまった様子。脱げた靴を、ずいぶんと離れたところまで取りに戻る様子。そのシーンを継いで見ていた家族が、テレビの前で何とも言えない表情を浮かべる場面までが映っていました。そのため、「これはどう見ても本人のせいではないのに、気の毒に……。給水ポイントを広げるなど、どうにかできなかったのか。足を踏んだのはどの選手だったのか。谷口選手本人はどんなに悔しかったことか……。」等々、様々な思いが去来しました。

ところがレース後のインタビューで谷口選手は、「こけちゃいましてね。後半はよく追い上げることができたんですが、これも運です。精一杯やりました。」と語りました。足を踏んだ選手を非難したり、また、途中でやる気をなくして力を落としたり、やめたりしないで、最後まで走り抜いたのでした。そして、すがすがしい表情で、完走後のインタビューを受けたのでした。

後日の新聞で、18歳の女子高校生の「谷口選手のように、人を憎んだりしない素直で優しい人になりたいと、強く思った。」という投書を目にしました。

昨年のダンスフェスティバルの前に、わたくしは学校だよりに「一生懸命取り組む姿は、理屈抜きで人の心を打つ」ということを書きました。今年は短距離走を加え、一人一人の子供が全力を尽くす姿、みんなで協力して演技を創り上げてきた姿などを御覧のうえ、励ましていただければと思います。

なお、本来であれば他の学年の子供たちの演技もご覧のうえ、声援をいただきたいところではありますが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、保護者の皆様は学年ごとの分散参観としております。お子さんの発表が終わりましたら、速やかな退場にご協力いただきますよう、お願い申し上げます。

10月の生活目標「天気の良い日は元気に外遊びをしよう。」

朝晩は少し寒くなってきましたが、日中は日差しが降り注ぎ、校庭で遊ぶにはとてもよい陽気です。太陽の光をいっぱい浴びることで、心身共に健康になれます。引き続き感染予防には十分注意し、楽しく外遊びができるよう声をかけていきます。